

12. 大学として取り組んでいる連携事業

12.1 超少子高齢化地域での先進的がん医療人養成

実施団体名

超少子高齢化地域での先進的がん医療人養成

：金沢大学、金沢医科大学、福井大学、富山大学、信州大学、石川県立看護大学

概要

北信がんプロの実施内容として、1) 6大学の強みを生かした最先端がんゲノム医療、小児・AYA世代・希少がんの集学的治療、ライフステージに応じたケアを大学の枠を超えて学習できる、共通科目や単位互換を導入した相互補完的教育コース（本科10、インテンシブ9）。2) テレビ会議システムを発展させた、北信オンコロジーセミナー、事例検討会。3) スタッフ研修として海外FD研修の実施。4) 他のがんプロ拠点や、人材育成プログラムとも積極的に連携し、国際シンポジウム、合同シンポジウムの実施。5) 市民啓発、がん教育活動の一環として患者会との連携や、北信4県の自治体、医師会、がん拠点病院と連携し、市民公開講座やシンポジウムの開催などである。本学は主に、大学院教育では、がん看護専門看護師の育成（本科生）と、テレビ会議システムを活かした事例検討会を実施し、がんに関心ある看護師の育成に努める。

12.1.1 がんプロ企画委員会

委員長：牧野 智恵（教授（研究科長））

委員：石垣教授（学長）、今井教授、岩城准教授、林講師、金谷講師、
松本助教、磯助教、山崎助教、南堀助教、大西助手、樋口特任助手、
澤本主幹 納橋専門員

活動内容：

1. がん看護専門看護師（本科生）の育成

1) 第2期がんプロに引き続き、38単位履修によるがん看護専門看護師の育成をおこなった。

2. インテンシブコースによるがん看護の知識の普及実施・評価

以下の4つのコースへの募集および成績判定を行った。

①「がん看護インテンシブAコース」

平成19年度から実施しているコースの一つで、北陸がんプロのがん看護本科生（大学院のがん看護専門看護師課程）を修了し、今後がん看護師専門看護師の受験をめざしている看護師、または更新予定のがん看護専門看護師を対象としたコースである。今年度は1名が履修した。

また、8月と9月にごん看護専門看護師と本コース申請者を対象に、がん看護専門看護師の知識と技術のブラッシュアップと専門看護師の受験に向けた学習のための事例検討会を実施した。今年度は、特別コメンテーターとして8月には北里大学病院の坂下智珠子ががん看護専門看護師、10月には北海道医療大学の石垣靖子先生にお越しいただいた。

②「地域がん看護師養成コース」

第2期がんプロのコースの継続である本コースのうち『地域がん看護師養成コースⅠ』として、入学前がん看護専門看護師の参加する事例検討会に参加することによって、日々の実践を見直せると同時に、その科目を入学後の履修単位としてカウントできるコースである。本年度は1名であった。

また、『地域がん看護師養成コースⅡ』では、大学院への入学は予定していないが、がん看護事例会への出席や本学開催の市民公開講座、リンパ浮腫研修、倫理事例検討会などに出席し、最新のがん看護の知識を得たい人を対象としたものである。既に認定看護師の資格を持っている人や、がん看護専門看護師の資格を持っている人が、資格更新のために利用することもできるように修了証の発行を行って来た。今年度は2名であった。

③「地域がん看護活性化コース」

第2期がんプロのコースの継続である本コースでは、休職中の看護師を復帰教育することを目的としたものであり、今年度の受講者は、1名であった。

3. がんプロ企画の実施と評価

1) 「グリーフの理解とナースに求められること」公開講演会の実施・評価

7月2日に本学大講義室にて、モナシュ大学の下稲葉かおり先生を招き、「グリーフの理解とナースに求められること」の講演を行っていただいた。89名が参加し、抗がん剤暴露予防に関する知識が固まったとの意見が聞かれた。

2) 「臨床で行なうリンパ浮腫ケア」基礎編・アドバンス編の企画・評価

今年度は、石川県済生会金沢病院（がん看護専門看護師・日本医療リンパドレナージ協会認定セラピスト）の高地弥里さんを講師として招き、9月9日（土）に本学成人看護学実習室にて実施した。64名の看護師が参加した。演習では、一人ずつマッサージでの圧の加減について高地先生に指導していただいたこともあり、自由記載において、「今回の実演により、これからは実践していけそう」という意見も得られた。また「浮腫のアセスメントをしっかりとすうえで、施術方法も把握して対応したい」など、知識を持つことやアセスメントの重要性も学べたことが伺えた。

また、2月17日（土）には、北陸在住の3名の日本医療リンパドレナージセラピストを招き、リンパ浮腫ケアのアドバンス編を実施し、13名が参加した。基礎編に引き続き、実践に活かせる内容にした。

3) ライフステージ事例検討会およびCNS対象クローズド事例検討会企画・評価

① ライフステージ事例検討会を実施した。

今年度は、6月から翌年3月までの期間に計8回の事例検討会を企画し、2月は大雪のため中止となり、計499名の看護師、医師、薬剤師、OT/PTが参加した。今年度は、信州大学からの参加が増え、活発な意見交換が行えた。

② CNSおよびCNS候補者を対象に、CNSクローズド事例検討会を2回実施した。8月22日には、北里大学病院のがん看護専門看護師の坂下智珠子さんをお呼びし、18名が参加した。10月22日には、石垣靖子先生をお呼びし、11名が参加した。

4) FD・SD講演会の企画・評価

① 「ケアの意味を見つめる事例研究」の実施

平成30年1月28日（日）に本学研修室にて、東京大学医学系研究科の山本則子教授を迎え、

「ケアの意味を見つめる事例研究」のテーマでの研修を開催した。病院看護師、教育関係者、大学院生等40名の参加があった。午前中は、事例研究の定義や、事例研究を進めていく手順、看護実践内容を人に伝えるためにどのように言語化していくか、などについての講義があり、8グループに分かれて、提示された事例の「キャッチコピー」を練るグループワークを行い、午後には、キャッチコピーとも向き合いながら、看護実践内容をカテゴリー化する過程まで行った。他のグループの発表を聴くことで、自分達のグループにない発想に気づけたり、事例研究の必要性や意欲が高まり、とても有意義な研修だったといった参加者からの感想があった。

②「医療者・患者の抗がん剤曝露予防を考えよう」の実施

石川県立中央病院薬剤師の米沢美和先生、四国がんセンター臨床研究推進部長の青儀健二郎先生、四国がんセンターがん化学療法認定看護師の岸田恵先生をお招きし、ホテル金沢にてSD講演会『医療者・患者への抗がん剤曝露予防を考えよう』を開催した。本学の牧野教授と、金沢大学薬学系の菅准教授が座長を務め、薬剤師・看護師合わせて56名の参加があった。日頃の臨床現場で何気なく取り扱っている抗がん剤が、医療者へ及ぼす影響と対策について、医師、薬剤師、看護師の異なる視点から見つめ直すことができ、抗がん剤曝露について正しく恐れ、多職種が共通の認識を持つことの重要性を学ぶ機会となったとの意見が聞かれた。

4. 海外研修

3月24日(土)～3月30日(金)の期間、オーストラリアのメルボルンに、「メルボルン緩和ケア視察研修2018」を企画し、14名(看護師、医師、薬剤師)が、石川県、福井県、富山県、長野県から参加した。オーストラリアにおける緩和ケアの歴史は長く、在宅緩和ケアの実践の歴史のあるオーストラリアの緩和ケアの現状を視察することで、北信地域における緩和ケア実践のヒントを得ることができた。

外部報告

平成29年度事業報告書

外部資金

研究拠点形成費等補助金(がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン)連携大学の負担金
10,580千円